



Masanari Kawaminami

1983年に三谷産業(株)入社。2000年に相模化成工業(株)へ出向、常務取締役就任。2002年にケミカル事業部ファインケミカル営業部長。2002年に(株)免疫生物研究所へ入社し、2003年に同社取締役就任。2004年に当社代表取締役就任し現在に至る。

2014年度 北海道地区代表

株式会社ジーンテクノサイエンス

代表取締役社長

河南 雅成

060-0002 北海道札幌市中央区北2条西9丁目1番地

<http://www.g-gts.com/>

ゼロからはじまる、無限の創薬力。

▶ 起業に至った動機

商社勤務時代に医薬品製造会社立て直しの為出向し、1年目は銀行相手に再建計画を推し進め、2年目は事業の再構築を行いました。この製造会社での2年間は、自らバイオ医薬を突き詰めたいとの思いの切っ掛けとなり、バイオベンチャーに転職という起業に向けた第一歩を踏み出しました。ここで事業開発や資金調達を担当し、更にIPOの一端を担うことができました。そして、2004年に当社の代表となり、独自のビジネスモデルを構築し、「バイオ医薬品を患者の元へ」との思いを乗せ、ジーンテクノサイエンスは船出したのです。

▶ 事業の概要について

当社は、アンメットな希少疾患や難治性疾患に対する画期的な新規医薬品を創出すべく、バイオ新薬の研究開発を進めております。また、バイオ後続品(バイオ医薬品のジェネリック)の開発も手掛け、2013年には国内初のバイオ後続品G-CSF製剤が上市できました。高価なバイオ医薬品の薬価を引き下げること、患者の経済的負担の軽減と医療、財政への貢献を目指しております。

複数品目の開発を平行してスピーディーに進めるため、当社の持つバイオ医薬品の開発ノウハウを生かして開発計画を立案した上で、社外の最適な試験受託企業や製造受託企業を選定し積極的に活用するファブレス型のビジネスモデルを採用している点が当社の特徴です。

▶ 今後のビジョンについて

当社は「大学発ベンチャーであることの公共性に準じ、利益の追求に留まらず、希少疾患や難治性疾患を対象とする医薬品開発により、人々のクオリティ・オブ・ライフを向上させ、社会に貢献する」ことをビジョンとして掲げています。

この理念に基づき、大学の研究現場に地道に蓄えられている医薬品に通じる研究成果を埋もれさせることなく掘り起し、日本から世界に発信できる「薬」を作ることこだわることが、新たな挑戦者を生み出すと信じて活動しています。

